

大臣
次官

電信課長

主管

電受第一三二一號
明治三十七年六月十日午七時三分
發着

小村外務大臣
北條道廳長官

本月九日午後八時五十分松前郡糸天島
燈臺沖合に於て軍艦ラシキモノ四五艘
發現せり一個宛東西別れ進航せり
其他の情不明
右糸天島燈臺より通知アリレ音函報
支廳長より報告アリ為念申報ス

大正十一年三月

(事務録)

事務録
三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

外務省

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日



奉

明治 年 月 日
同 年 月 日
起草
發遣

改官局長
中

主任

[Handwritten signature]

逓信省

和四(五号) 宗城 24 電信課

電話第七〇號

元山 本市 各局

大五

和三(三三) 宗山 92 電話第七三六

和一(一五) 山 七九

外務省

軍令三命 通を依り 西條
國浦塩 融尿を朝 飯高
沖ノ島附近ニテ 高知 砲野
方ニ趨キ 右石 砲報入

和自代理

和山馬山 砲中 砲事

和七(七) 砲

チノ

次友

至

以

中

小村外務大臣

在元山

電送第三五號 明治二十一年六月

大本副使

力二三号

上村艦隊司令長官若石

貴如ニ入港セハ至急夫ノ件

外務省

シ付ヘタリ

牙領艦ヲシキモノ四隻(由一隻)

ニ我商船ヲ捕獲シタルモノ

シ(十六日午前十時頃隈

國島前北ノ沖ニ現ハシ

同午後一時頃西北ニ向テ進

行急メテ見ハシテ雨霧

ニ其影ヲ失ヒテ右方全印

電送第七三號
明治三十二年一月二日
第六二號

書
年

大村の方大臣

在韓

秋桑臨時代理之使

九月二日

甲寅年十月

集義浦船ヲ捕獲スル事

外務省

十一月十六日午二時頃

嶮島北ノ沖ニ現ル

午後一時頃西北ニ向テ進行ス

ルカ見

右ノ金山、馬山、木浦

領事一轉電アリ

鎮守浦

之山船のく

上村^{飛取}のくを交差し中陸との間にたの件
あるを傳くことあり
（内一層は我が商船の捕獲しつたものと知し）
露船らしき者四隻十名は多末十時頃
隠岐島寄北、沖に現はし日多末一時
次西北に向て進行する如く見へしと所務
のノ其影ヲ矢に判りしと事なき見
本島寄北の事あり

海軍

奉

奉

電送第三七號 明治三十七年十月二十日

主 大木判印 小村松太郎

(為二四号)

上村松太郎 御用者及御入札者ニ
御注意入ラセ

十二日午後三時五分 御用者ノ
御入札

先キニ三隻、三本棹、
御用者ニ向

外務省

三時五分迄 東北、
御用者ニ向

上村船政の所長及著の「海軍の近代化」
多量の傳入ありし
十六日午後階級は北方郵便のり、報告は係
レ、午後三時十五分、後又、汽船ヲ先キ、三
隻、三本橋ノ軍艦西ニ向テ進行シ、三時、順
更ニ東北ニ轉シ、徐カニ進航セリ

元山節

海軍

5-0363

0014

電

明治 年 月 日
年 月 日
日起
日發達

事務

主任

電送第七號
明治三十一年
日

在金山

有光領了

大尾

第三四号

隱岐島北方郵便局

今日十六日午後三時十五分三隻

一三本橋ノ軍艦(号々露不軍)

艦十(西ニ向ケ進)行シ三時半

外務省

頃更ニ東北ニ移シ徐カニ進(航)

セリト云フ)右在韓各領事

(元山ヲ除ク)及ヒ在京城公使

(轉電)セヨ

区電
ムク

大臣

次官

電信課長

主管

電受第一二三一號
明治廿年七月三日
午後十時五分
發

外務大臣

元山大木副次官

水三三三号

昨日沖ノ島附近、現見し、露國浦船
船隊其後ノ様子電報ヲ

外務省

5-0363

00 15

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

秘

第二四號

運輸通信長官宛

六月十六日 午後三時五分 吉澤大尉

生



表

土佐丸、常陸丸、遭難者三十七名ヲ搭セ午後二時門司着、委細取調中又汽船ニテ目下遭難地附近ヲ搜索中ナリ

秘

第二八五號

電報

六月十六日 午後三時五分 留守第三師團長

生



表

参謀總長宛
佐渡丸、東紐丸、鉄道經理部、平崎陸軍校手以下十六名、高輻重輸卒一名ヲ合、海船ニ救ヒテ、午後零時四十分無事小倉ニ着、又同航乗組員ニシテ、海船ニ救ヒシモノ約三十名、又苦勞目下何レ在ルヤ不明、常陸丸、東紐丸、三十名許、救ヒシモノ若松ニ着キ、本日午後零時八分、大連島、交通報、依テ、避難兵約三十名、同地上陸セリト

秘

第二八六號

電報
參謀總長宛

六月十六日午後一時二十分小倉發
在小倉遭難者野戰鐵道運轉班建築班

生

查

3

昨午前十時二十分玄海灘ニテ我佐渡丸及ビ常陸丸
トモ露艦四隻ニ砲撃セラレ我佐渡丸常陸丸共敵
ノ水雷ニ午後三時沈没サレ佐渡丸船長其他数名捕
留サレ野戰鐵道隊ノ内百名餘武内中佐ノ命ニ依
リ端艇ニテ逃レ當市ニ着ク

秘

第二八七號

電報
參謀總長宛

六月十六日午後三時五分姫路發
會
留守第十師團長

生

查

昨十五日常陸丸長門沖ノ島附近ニテ敵艦
・撃沈セラレ乗組員輻重兵第十大隊第
三糧食縦列輻重輸卒池隅勇吉等之漁
船ニ救ヘ頭部ニ彈片ノ輕傷ヲ負ヒ山口
縣阿武郡椿郷東分村在リテ治療中ノ
報告今着ス

山

第二八八號

電報

運輸通信長官宛

六月十六日 午後三時四十五分發
福留縣宇佐郡大島村沖ノ島 午後四時三十五分着

今川 主計

佐渡丸十五日午前十時五界沖ニテ敵艦三隻ノ砲撃ヲ受
ケ其結果戦闘負ハ敵艦ニ來レ非戦闘負ハ本船ヲ去レト
申込ヲ受ケ遭難者約七十名此他ニ漂着セリ糧食ナシ

十
1919

5-0363

00 19

第三八九号

電報

三月廿五日午後三時五分至五時五分着

運輸通信長官宛

門司 吉澤大尉

4

玉佐丸ハ六連ニテ常陸丸ノ生存者三十七名ヲ救助シ
入港ス近衛後備第一聯隊第六中隊軍曹田所亀
松第五中隊二等卒藤崎席一及火夫山瀬辰次郎
ノ報告ニ依リ六連陸丸ハ十五日午前十時半頃敵艦三
艘ニ追ハレ全速力ニテ前進ス敵ハ初メ空砲ヲ放チ引
續キ實弾ニテ連續急射撃シ死傷スル者多ク此
際彈藥庫ヲ開ク間モナカリシガ敵艦ハ更ニ接近シ側
面ヨリ急射撃ヲナシ機関破裂裂乗組者死スル者
多ク又第三層ヨリ出火ス藤崎二等卒ハ分隊長

沼里伍長ノ命ニ依リ聯隊旗ヲ保護セントセシニ聯隊長
須知中佐ハ己ニ軍旗ヲ燒キ旗竿ヲ碎キ居ラシ汝等
ハ海上ヲ泳キ還リテ此旨ヲ報告セヨト命セラレタリ
モナク砲彈屑ニ當リテ戦死セラル將校ノ大部ハ割腹
又ハピストルニテ自殺第六中隊長ハ海ニ投ス此間ボート
ヲ卸ス間モナク船長事務長海ニ投ス監督將校戦
死セリ二等運轉士自殺敵ハ更ニ第三回ノ急射撃
ヲナシ常陸丸ハ全ク沈没ス波高ク敵艦ノ行動不
明ニテ前方ヨリシ佐渡丸ハ西北ニ向テ進行セリ其
後一艘ノ獵船ヲ三十七名救助セラレ六連島ニ着キ土
佐丸ニ救助セラル沈没ノ際尚一隻ノボートアリ三十名計乗
ル様トドモ行先知シテ救助セラレタルハ田所軍曹外兵
卒三十四名火夫一艘内火夫一十名内輕傷十二名稍々重傷一
名トシテ佐丸ヲ本泊宇布島ニ遣

第二九〇號

參謀總長宛 電報

六月十六日 午後五時三十分 勝本 宛
在勝本 村田 技師

生 後

十五日下午十時露艦三隻ニ砲撃セラレ 鐵道員三名外
九名ト避難シテ壹岐勝本ニ着リ其他ノ人員生死不明

第二九一號

參謀總長宛 電報

六月十六日 午後十一時十分 勝本 宛
留守第十二師團長

生 後

十六日午後七時四十分内司發兵站基地司令官、電報ニ
曰ク常陸丸及佐渡丸ノ遭難者十六名患者集合處ニ
収容尚引續キ上陸ノ筈

六月十六日午後大本營着電 留守第十二師團司令部
陸軍運送船佐渡丸常陸丸昨十五日午前十一時門司ヲ距ル
約四十哩ノ附近ニ於テ三隻ヨリ成ル敵ノ艦隊ニ遭遇シ敵ハ
常陸丸ヲ撃沈シ佐渡丸ノ機関部ニ水雷ヲ命中セシメタル
後北方ニ退却セリ佐渡丸ノ漂泊シテ今朝沖ノ島東方約六哩
ノ處ニ在リ漸ク沈マントス其ノ救助トシテ日之丸今當地ヲ
往過セリ常陸ノ乗組ハ殆ンド殲滅セルモノ、如ク佐渡丸ニハ
下士以下數十名ノ死者アルナラン今朝七時佐渡丸ヲ發シ端
船ニテ今六連島ニ着シタル川人工兵少佐報告ス

六月十六日午後大本營着電 留守第十二師團司令部
十六日午後七時四十分門司發ノ電報ニ曰ク常陸丸及佐渡丸
ノ遭難者十六名患者集合處ニ收容尚引續キ上陸ノ苦
六月十六日午後大本營着電 在勝本村田技師

十五日午後十時露艦三隻ニ砲撃セラレ鉄道員三名外九
名ト避難シテ壹岐勝本ニ着ク
六月十七日午前大本營着電 在門司吉澤大尉
佐渡丸乗込川人少佐着ク
佐渡丸將校ハ皆無事今朝(十六日)七時約百名本船ニ在
リ端艇ニテ逃ケタルモノモ本船ニ歸レルモノ多シ常陸丸
乗込十二名モ佐渡丸ニ来レリ

建表

電報

六月十六日午後五時三十分

陸軍省北方部便局

午後三時十五分一隻、汽船ヲ先キニシ
三隻、三木橋、軍艦西ニ向ケ進行
シ三時半頃更ニ東北ニ轉シ徐カニ進
航セリ

海軍

5-0363

0023

内務大臣

福島縣知事

生



有馬守左衛門尉三郎於八月二十五日
 以船隻向六連崎、漂着し、常陸丸避難者同所
 三於土佐丸、収容せし正午門司港、入港せし力避難者
 八名傷者八名健康者二七名計三五名(兵負)外、非戦
 間負二名シテ其語ハ、依レテ常陸丸ハ昨日午前十時
 頃筑前大島沖ニ於テ敵艦ニ出会同十時三十分頃砲撃セ
 ラレタルカ最初一弾同船、機関部ニ命中シ即死十六名ヲ
 出ス而シテ敵艦中、小艦ヨリ約百發ノ砲撃ヲ続行セラレタル
 ヲ以テ同船ハ白旗ヲ揚リ乗組員ハ大概自殺ヲ遂ケ他ニ海中
 ニ投身ス其状、惨憺タリシ又同船ノ乗組員ハ近衛師團
 三箇中隊及十師團(艦列)隊約七百名シテ上席士官ハ

海兵中佐ナリ自分等ハ海上ニ浮沈瀕死ノ際或ハ漁船ニ救助
 セラルト又本日正午十二時軍分初下小倉港ニ端艦又ハ漁船
 ニラ佐渡丸乗組員銃道技手以下十六名難難シ来リ其
 語ハ、依レテ佐渡丸ハ指揮官竹内中佐以下皇野少佐(西尾大
 尉)静島少尉及曹長四名下士卒百余名並ニ銃道技師
 山城均、阪久雄、吉野又次郎、古川武太郎外ニ銃道隊員三
 百余名ヲ搭載シ昨日午前六時三十分関門海峡ヲ通過シ沖
 ノ島附近ニ進行セリト三本烟突ノ敵艦二隻二本烟突及ヒ
 四本烟突ノ敵艦各一隻敵各四隻出会レタリ此ノ時敵艦ハ或
 ル信号ヲ為セシカ間モナリ敵艦ヨリ士官一名来リ非戦間負
 ハ一時百以内ニ退、二ノヤノ後四十分ノ餘裕ヲ与ヘテ一時早
 急間退却ヲ命ジタルハ非戦間負五十名ハ端艦又ハ漁船

ニラ逃レテテ時ノ此地宮ニ懐懐クリテ而シテ世難時刻ハ
午前十時三十二分ニシテ乗船多ク内ハ城阪ニヨクキレハ捕虜
トナリ残りニ名ハ行衛不明又將校ニ名ハ船内ニラ割腹シ其他
不明又同船ハ最後ニ敵ノ水雷ヲ受テ乗沈ヤリト

由由長尾 福名地
よりなる年長五の孝り者

此今修治丸、廻航志田名渡船
に拍付せし時多島港、来り又小島渡
船一艘より渡船二艘より来り進出
了り門司へ戻してより守船に候し十
基汽船、廻航志田名渡船に若
干名乗船せりト云フ詳細は不明上
り候船に乘込しメ廻航志田名渡船に
乗込し者も山ノ口に候計なり

由由長尾 福名地

内務省

修治丸常備丸、二隻の所、あす
此以渡船の救急池せりし修治丸、乗
組者十三名、渡船に救助せりし者も
以園務本港、乗美しり人が候
係に渡船一本二隻船に沈没西方
より進出しりト云推し候り
電報

中好古臣 福島の御守
シテ今午年申の御事奉り若

持由治之上侍を侍後丸、御取者

一昨御縁を建案部ハシモシテ

人夫森本強七人丈河田三平親を

扱手トケクメイワク、ヨク、シテ

後山山崎仙吉、扱めせしりんをナシ

内務省

手付治傳ハ先割後取せし 要領ハ上差

ナシニ、ヨク、シテ、ヨク、乗組輸送掛

扱取者ヨク、少侍ハ、御取上シ、

任者ヲ、交り、ヨク、乗組員ヲ、ヨク、

此御取員ハ、出来、ヨク、子、能、ハ、任、り

返、去、カ、又、ハ、一、取、取、ハ、収、取、セ、ラ、ン、カ



川ノ字街
ナラシ

任是クハ一也。但此船所負ハ什陳述
 三ハワラシメサエ又故船、モ収容セラシム
 船ヲ傳授スレハ宣告シ経路、幸、乗
 但夫レシラ生ヲ全フカ陸地ニ漂着セシ
 者アラハ此状也。詳細、指是ニハシト云
 此船所負ノ字名、船名、分乗
 し船名ト稱シクハガヨセリ。故船、水
 内務省
 面ハ任是九ノ中央部、中リ煙草
 船ヲ乗ケレ由テ存、状也。而シテ
 正名トモ字名トハ仲ノ的ヲ拒ン約三ノフ
 ト、仲ノ漂流スル船名ニ艘乗ケレテ
 以テ字名トシ、此ノ漢船、救助セラシム
 シヨリト云フ又任是九カ船名トモ云フ

本年の如く三ノ川に沖の島に
 西方約三ノ川の半、沖の島、韓海を
 下ノ関の島に在りて日本船一
 隻撃沈せしむる事同敷の如し
 キ
 中務省に福島の事あり
 三ノ川に在りて本年の事あり
 島に沖の島に遊覧者二十名あり
 内務省
 大毛海上危険なる事認め、注意
 する

東洋の船は
今も昔も
同じである

本、船政の信及名知夫船字
船打沖、船政の船字は
今も昔も同じである
と云ふ事は、船政の
歴史を知るに必要である

内務省



5-0363

0031

中野三郎 西三回海軍中隊
ニシテ

先づ國務大臣に報告せしめし

修治丸乗組者、請、信、白、船

一、島、西、三、回、海、軍、中、隊、の、一

二、海、軍、中、隊、の、一、員、を、送、り、

三、出、立、し、海、軍、中、隊、の、一、員、を、送、り、

内務省

四、本、日、の、海、軍、中、隊、の、一、員、を、送、り、

五、見、察、す、る、に、本、日、の、海、軍、中、隊、の、一、員、を、送、り、

六、船、七、隻、を、送、り、本、日、の、海、軍、中、隊、の、一、員、を、送、り、

七、本、日、の、海、軍、中、隊、の、一、員、を、送、り、

八、本、日、の、海、軍、中、隊、の、一、員、を、送、り、

九、本、日、の、海、軍、中、隊、の、一、員、を、送、り、

大臣次官 宛至り電報

内務大臣 山口品去奉

六月十日午後四時四十分至其日五時廿分

物産 海軍 陸軍 内務 通

寄信在東京軍部田町一區松外下士
一兵三三所后六時漁船三枚ハレ今
前十時豊浦郡六連島へ上陸柵
柵沿海軍戒中ノ多ク募船及土佐
丸等ノ乗上ル日陸軍部ハ令部
引渡アリ船目下於豊船ハ救済
等物ノ送奉ス

内務省

予て傳へたる 的確なる事
とす。此等事は 昭和三年三月五日 東京

一層 艦ヲ之ニ 舩三隻 陸軍國下

賀村ノ北約ニ 里ノ現ハル 烟突ニ

本アソト

内務省



5-0363

0034

三月十日午後四時四十分
東京 宇賀村ノ北約四里ニ止マリ内
一 隻ハ沈マントスルカ如シトノ旨及ニ此
精査中ノ事ヨリ 電報アリ

電報セシニ復 船ラニキ 船ハ四

隻ニラ 宇賀村ノ北約四里ニ止マリ内

一 隻ハ沈マントスルカ如シトノ旨及ニ此

精査中ノ事ヨリ 電報アリ

内務省

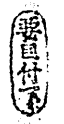
大臣

次官

電信課長

主管

事務



電受第一三三八號 明治廿七年六月十七日 午後九時十五分

外務省

北海道廳長官

越後汽船會社汽船十二ワタツ丸
船長、本日午後五時、博警署署
出頭、昨夜岩内より博警署向

外務省

航延年九時三十分頃 サンナイ沖
四里程、園知、船長、船長、
二機、機、機、機、機、機、機、機、
船、船、船、船、船、船、船、船、
右、右、右、右、右、右、右、右、

大臣

次官

明治 年 月 日
起草
日發遣

主任

小村外務大臣

立紳

電送第...
明治...
外務省

秋原臨時代理ニ付

初三四七

作を要港日令左ノ初先ニヨシ

十七日午方十時中十九時四十五

分ヨリ十時二十分頃マテ西の港

外務省

部ノ幼北東ニあり六・七ノ段ノ

砲聲耳ヲツノ距離ニ四十哩

以上ナラントイフ又リ用島公ヒ

壹岐嶼の望橋ヨリモ砲聲ヲ

エトノ初先アリ

右元山ヲ除キ各領事一轉電

アリ

上村将軍の御書に
伊予守に
十七日午前十時
報名三紙
吹ッリ
又南
報

三ノ



軍

(註印紙の台紙)

5-0363

0030

大臣

明治 年 月

日 起 草
日 發 遣

電送第七
明治 年 月 日

主任

次官

立元山

小村外務大臣

大木副領事

(第二十五号)

軍令部ヨリ

上村艦隊司令長官及若入港

外務省

セハ至多若夫ノ件ヲ仲一ニシ

十七日午三時四十二分發竹友

要の港ヨリ今左ノ報告ニヨレハ午三

九時四十五分ヨリ十時二十分頃

追要の港部ノ約北東ニあり

六七分、砲声ヲ多クシ距離内

四十海里以上ナラシトイフ又ノ用

島名ニ春岫岫の望樓ヨリモ

手書

砂聲斗寸エルノ校考アリ

外務省

5-0363

0040

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

大臣
次官

電信課長
主管
事務

電受第一二七號
明治廿九年六月五日
午後八時五分
發着

少村外務省
元山 大木

才二三号
千早船本日午後五時入港六
時出港船長之言ニ依ルニ此十号

外務省

生可嘉船ヲ二十哩ノ処ニテ發見セシメ
不幸ニシテ風雨ノ為好キ其踪
跡ヲ見失ヒ先々以テ直ニ城津沖
直航シテ本日当港ニ来リ
上村司令長官ニ電報ニ通ハ
右艦長、渡号

政務

次官 大臣

生

電送第

A Via

手



Sent June 17^木 1904. 3:57 a.m.

2322/9

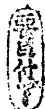
號

Wds.

TAKAHIRA, Washington.	No. 213	
HAYASHI, London.	No. 312	(Omit tenden.)
INOUE, Berlin.	No. 166	
MOTONO, Paris.	No. 138	
NOMA, Hongkong.	No. -	
ODAGIRI, Shanghai.	No. 215	
UCHIDA, Peking.	No. 375	
HAYASHI, Seoul.	No. 255	

(TEXT ANNEXED.)

KOMURA.



Press Admiral Kamimuras fleet started morning 16/6 pursuing ~~Russians~~ Vladivostock squadron transmit

沖

政務 次官 大臣

電送第

Via



Sent June 17 1904 noon m.

2313/20 號 Wds.

TAKAHIRA, Washington. No. 212

HAYASHI, London. No. 311

INOUE, Berlin. No. 165

MOTONO, Paris. No. 137

NOMA, Hongkong. No. -

ODAGIRI, Shanghai. No. 214

UCHIDA, Peking. No. 374

HAYASHI, Seoul. No. 254

(Omit tenden.)

(TEXT ANNEXED.)

KOMURA.

Handwritten notes in Japanese characters, including '海軍省' (Ministry of Navy).

Press Morning 15/6 Vladivostock Squadron Russia Gromboi Rurik appeared Genkai attacked transports Hitachimaru sunk with but little survivors Sadomaru torpedoed but not sunk majority men ^{expected} saved Izumimaru fate unknown Squadron sighted off Oki island 16/6 transmit stop

Press Kuroki reports detachment occupied 12/6 Huaijen 65 miles northeast Kuantien Enemy consisted 300 Russians and 300 Hungtze No Japanese casualties Enemy's casualties unknown One prisoner epaulette shows Fifteenth East Siberia regiment transmit

第二九二號

運輸通信長官電報

六月十七日 午前 零時 二十五分 門司 發
在門司 吉澤大尉

生

佐渡丸 乗込 川人 少 佐着ク
佐渡丸 將校 階 無事 今朝 (十六日) 七時 約 百名 本船ニ
在リ 端 艇 子 逃ケ タル モ 本船ニ 歸レル モ 多シ 常陸丸
乗込 十二名 毛 佐渡丸ニ 乘レリ

第二九四號

電報

六月十七日午後二時七分門司發
三時四分東京着
在門司山口少佐

運輸通信長官宛

佐渡丸ハ十五日午前十時六連島ヨリ三十哩ノ所ニ於テ敵艦二隻
ニ圍マレタルヲ以テ非戦開員ヲ出来得ル限リ諷シテ本艦ヲ去ラ
シメ將校ハ敵艦ノ轟沈スルニ任セタリ敵ハ砲撃ノ後本艦左右
舷ニ各一發ノ水雷ヲ發射シ慌テ西方ニ引上ケタリ此ニ發回
水雷ハ見事ニ機雷部ニ命中爆發シタルモ幸ニ沈没ヲ免カレ
今朝伊勢丸ノ援助ヲ受ケ當地ニ着ク
將校ハ無事下士以下今取調中
佐渡丸ハ尚使用ノ望ミアルヲ以テ取敢ハス應急手段トシテ當
地ヨリ排水器及必要ノ人員ヲ佐渡丸ニ遣ル苦至急救助船
差遣セラレタシ

司令部ハ當地ニ残シ置キ下官ハ守品ニ急行ス

第二九五號

參謀總長宛 電報

六月十七日午前零時三十分東京著

佐伯ヒツ(彪?)

佐渡九十五日午前十時馬関ヨリ約五十哩北ニ敵艦ロシヤ外ニ隻ノ爲メ砲撃サレ佐伯ヒツ(彪?)ニ戸恒吉、池上伊作、村木ケウイチ、山崎秀松、枝手小倉次郎、山崎美一、雇員西田政太郎、平岩アセウ、長井朝次郎、曾補五作、丹羽銀次、大塚次郎、山崎善次郎、杉山ケウウウ、嶋田義三郎、笹川忠治、横山カキ太郎、山崎次鉄、三浦勝治、傭人三三人及他部隊員一七人計七〇人水船ニ乗リ三二時間海上ニ漂ヒ十六日午後五時五十五分大嶋沖東經百三十度北緯三十四度ノ箇所ニテ英國船ダンバシ號ノ救助ヲ受テ今長崎要塞司令部ニ著ク

第二九六號

電報
參謀次長宛

六月十七日 午後二時三十分門司發
在門司 田村工兵大佐

佐波丸は十五日午前六時半馬関海峡ヲ通過シ常陸丸ト相平行
シテ航進中同九時五十分敵ノ軍艦三隻ノ為メ砲撃セラレ續テ
包圍ヲ受ケタル為メ遂ニ停止シ北戦員ノ過半ヲ端艇ニ移シ先
頃露西亞號トモ思ル敵艦ヨリ砲弾及發射水雷各一發ヲ
受ケ機関部ニ大破ヲ来シタリ此時常陸丸ハ敵艦二隻ヨリ烈シ
キ砲撃ヲ受ケ火災ヲ起シ遂ニ沈没セリ我佐波丸ハ損傷部ヨリ
ノ浸水甚シク將校以下
陛下ノ萬歳ヲ三唱シ軍刀又ハ拳銃ヲ以テ最後ノ準備ヲ為シ
ツ、アリシニ敵艦ハ更ニ第二ノ水雷ヲ發射シ我機関部ニ命中

セリテ見テ急ニ北方ニ向テ退却セリ茲ニ於テ一同意ヲ翻シ成
シ得ル限リ避難スルヲ得策トシ銳意急造筏ノ製作ト浸水
ノ防遏トニ從事シ尚ホ且ツ不良ナル天候ニ苦メラレツ、三拾餘
時間海上ニ漂流シ十六日午後一帆船ヲ發見シテ之ニ全員ヲ移
シ馬関ニ向ヒ航行中今朝救助船伊勢丸及日ノ丸ニ遭遇シ
之ニ收容セラレテ正午門司ニ着セリ
小倉監督將校ハ露艦ニ行キ今川西岡兩主計宮澤軍医
小林夫野中村ノ三事務官小城酒井村田ノ三技師並判任
官以下(船員共)約六百名ハ前ニ退船セシモ其後行衛不明
死體ヲ發見セルモノ三(内ハ自殺)也、將校以下何レモ無事
又本船漂流中端艇ニテ避難中ナル常陸丸ノ下士以下五十二
名ヲ收容セリ同下士ノ言ニ依ルハ同船輸送指揮官須知中佐
ハ割腹シテ壯烈ナル最期ヲ遂ケ他ノ將校ハ殆ンド全部砲弾
ノ為メ戦死セリト又該下士以下ノ大部員傷シアリ

第 二 九 七 號

電 報
運 輸 通 信 長 官 宛

六 月 十 七 日 午 后 六 時 四 十 分 發
同 日 午 后 七 時 五 十 分 東 京 着
在 門 司 吉 澤 大 尉

伊 勢 丸 三 百 四 十 六 名 未 生 存 者 總 計 四 百 三 十 九 外 二 死 体
一 及 入 院 後 死 亡 一 ナリ 將 校 生 存 者 當 地 在 此 者 尤 如 下
田 村 大 佐 川 少 佐 葛 城 大 尉 豐 嶋 大 尉 今 村 主 計
武 内 中 佐 星 野 少 佐 西 尾 靜 岡 大 尉 牧 野 軍 医
吉 野 古 川 河 内 貝 瀨 技 師
山 口 少 佐 竹 峯 平 澤 大 尉 岸 主 計
佐 藤 中 佐 吉 田 今 西 大 尉

六月十七日午後大本營着電 在門司 田村工兵大佐

佐渡丸十五日前六時半馬関海峡ヲ通過シ常陸丸ト相平行
 シテ航速中同九時五十分敵ノ軍艦三隻ノ為メ砲撃セラレ結テ
 包圍ヲ受ケタル為メ遂ニ停止シ北戦員ノ過半ヲ端艇ニ移シ先
 項露西亞號トモ思ル敵艦ヨリ砲弾及發射水雷各一發ヲ
 受ケ機関部ニ大破ヲ来シタリ此時常陸丸ハ敵艦ニ隻ヨリ烈シ
 キ砲撃ヲ受ケ火災ヲ起シ遂ニ沈没セリ我佐渡丸ハ損傷部ヨリ
 ノ浸水甚シク將校以下
 陛下ノ萬歳ヲ三唱シ軍刀又ハ拳銃ヲ以テ最後ノ準備ヲ為シ
 ツ、アリシニ敵艦ハ更ニ第二ノ水雷ヲ發射シ我機関部ニ余中

13

セハク見テ急ニ北方ニ向テ退却セリ茲ニ於テ一同意ヲ翻シ成
 シ得ル限リ避難スルヲ得策トシ銳意急造筏ノ製作ト浸水
 ノ防遏トニ從事シ尚ホ且ツ不良ナル天候ニ苦メラレツ、三拾餘
 時間海上ニ漂流シ十六日午後一帆船ヲ發見シテ之ニ全員ヲ移
 シ馬関ニ向ヒ航行中今朝救助船伊勢丸及日ノ丸ニ遭遇シ
 之ニ收容セラレテ正午門司ニ着セリ
 小倉監督將校ハ露艦ニ行キ今川西岡兩主計官澤軍匠
 小林矢野中村ノ三事務官小城酒井村田ノ三技師並判任
 官以下(船員共)約六百名ハ前ニ退船セシモ其後行衛不明
 死體ヲ發見セルモノ三(内ハ自殺)他ノ將校以下何レモ無事
 又本船漂流中端艇ニテ避難中ナル常陸丸ノ下士以下五十二
 名ヲ收容セリ同下士ノ言ニ依ルハ同船輸送指揮官須知中佐
 割腹シテ壯烈ナル最期ヲ遂ケ他ノ將校ハ殆レド全部砲弾
 ノ為メ戦死セリト又談下士以下大部員傷シアリ

大正十一年六月十七日

六月十七日午後大本營着電 在門司 田村工兵大佐

佐渡丸、十五日午前六時半馬関海峡ヲ通過シ常陸丸ト相平行
シテ航進中同九時五十分敵ノ軍艦三隻ノ為メ砲撃セラレ続テ
包圍ヲ受ケタル為メ遂ニ停止シ非戦員ノ過半ヲ端艇ニ移シ先
項露西亞號トモ思ル、敵艦ヨリ砲弾及發射水雷各一発ヲ
受ケ機関部ニ大破ヲ来シタリ此時常陸丸ハ敵艦ニ隻ヨリ烈シ
キ砲撃ヲ受ケ火災ヲ起シ遂ニ沈没セリ我佐渡丸ハ損傷部ヨリ
ノ浸水甚シク將校以下
陛下ノ萬歳ヲ三唱シ軍刀又ハ拳銃ヲ以テ最後ノ準備ヲ為シ
ツ、アリシニ敵艦ハ更ニ第二ノ水雷ヲ發射シ我機関部ニ命中

セルヲ見テ急ニ北方ニ向テ退却セリ茲ニ於テ一同意ヲ翻シ成
モ得ル限リ避難スルヲ得策トシ銳意急造筏ノ製作ト浸水
ノ防遏トニ從事シ尚ホ且ツ不良ナル天候ト苦メラレツ、三拾餘
時間海上ニ漂流シ十六日午後一帆船ヲ発見シテ之ニ全員ヲ移
シ馬関ニ向ヒ航行中今朝救助船伊勢丸及日ノ丸ニ遭遇シ
之ニ收容セラレテ正午門司ニ着セリ
小倉監督將校ハ露艦ニ行キ今川西岡兩主計官澤軍医
小林矢野中村ノ三事務官小城酒井村田ノ三技師並判任
官以下(船員共)約六百名ハ前ニ退船セシモ其後行衛不明
死體ヲ発見セルモノ三(内ハ自殺)他ノ將校以下何レモ無事
又本船漂流中端艇ニテ避難中ナル常陸丸ノ下士以下五十二
名ヲ收容セリ同下士ノ言ニ依ルハ同船輸送指揮官須知中佐
ハ割腹シテ壯烈ナル最期ヲ遂ケ他ノ將校ハ殆レド全部砲弾
ノ為メ戦死セリト又談下士以下ノ大部負傷シアリ

六月十七日午台大本營着電

在內司山口少佐

佐渡丸ハ十五日午前十時六連島ヨリ三十哩ノ所ニ於テ敵艦二隻
 〇圍ヲレタルヲ以テ非戰開演ヲ出未得レ限リ諷シテ本艦ヲ去ラ
 シメ將校ハ敵艦ノ轟沈スルニ任セタリ敵ハ砲撃ノ後本艦左右
 舷ニ各一發ノ水雷ヲ發射シ慌テ西方ニ引上ケタリ此ニ發回
 水雷ハ見事ニ機關部ニ命中爆發シタルモ幸ニ沈没ヲ免カレ
 今朝伊勢丸ノ援助ヲ受ケ當地ニ着ク
 將校ハ無事下士以下今取調中
 佐渡丸ハ尚使用ノ望ニアルヲ以テ取敢ハス應急手段トシテ當
 地ヨリ排水器及必要ノ人員ヲ佐渡丸ニ遣ヒ皆至急救助船
 差遣セラレタシ

司令部ハ當地ニ殘シ置キ下官ハ守品ニ急行ス

六月十七日午後大本營着電

在門司山口少左

佐渡丸ハ十五日午前十時六連島ヨリ三十哩ノ所ニ於テ敵艦二隻
ニ圍ワレタルヲ以テ非戦開演ヲ出来得ル限リ諷シテ本艦ヲ去ラ
シメ將校ハ敵艦ノ轟沈スルニ任セタリ敵ハ砲撃ノ後本艦左右
舷ニ各一發ノ水雷ヲ發射シ慌テ西方ニ引上ケタリ此ニ發回
水雷ハ見事ニ機関部ニ命中爆發シタルモ幸ニ沈没ヲ免カレ
今朝伊勢丸ノ援助ヲ受ケ當地ニ着ク
將校ハ無事下士以下今取調中
佐渡丸ハ尚使用ノ望ニアルヲ以テ取敢ハス應急手段トシテ當
地ヨリ排水器及必要ノ人員ヲ佐渡丸ニ遣ハ苦至急救助船
差遣セラレタシ

司令部ハ當地ニ残シ置キ下官ハ守品ニ急行ス

六月十七日午後大本營着電

佐伯ヒウ(彪?)

依渡丸、十五日午前十時馬関ヨリ約五十哩北ニ敵艦ロシヨ外ニ隻
ノ爲メ砲撃サレ佐伯ヒウ彪一戸恒吉、池上伊作、村本ケウイ、山崎
秀松、技手小倉次郎、山崎美一、雇員西田政太郎、平岩アセウ
長井朝次郎、曾福五作、丹羽銀次、大塚次郎、山崎善次郎
杉山チヨウウウ、嶋田義三郎、笹川忠治、横山ケケ太郎、山崎次鉄
三浦勝治、傭人三三人及他部隊員一七人計七〇人水船ニ乗リ
三三時間海上ニ漂ヒ十六日午後五時五十五分大嶋沖東經百三
十度北緯三十四度ノ箇所ニテ英國船ハシロ號救助ヲ受テ
今長崎要塞司令部ニ著ク

六月十七日午後大本營着電

在門司 吉澤大尉

伊勢丸ニテ百四十六名未ニ生存者統計四百三十九外ニ死体
一入院後死亡一ナリ將校、生存者當地在心者尤、如シ
田村大佐、川入少佐、葛城大尉、豊嶋大尉、今村主計、
武内中佐、星野少佐、西尾、靜岡大尉、救野軍医、
吉野、古川、河内、具瀬、技師、
山口少佐、行峯、平澤大尉、岸主計、
佐藤中佐、吉田、今西大尉

六月十七日午後大本營着電

在門司 吉澤大尉

伊勢丸ニ乗四十六名未ル生存者統計四百三十九外ニ死体
一及入院後死亡一ナリ將校ノ生存者當地ニ在ル者尤如シ
田村大佐川人少佐葛城大尉豊嶋大尉今村主計
武内中佐星野少佐西尾靜岡大尉牧野軍医
吉野古川河内具瀬技師
山口少佐行峯平澤大尉岸主計
佐藤中佐吉田今西大尉

六月十七日午後大本營着電

在門司 吉澤大尉

伊勢丸ハ佐渡丸ノ乗込員ヲ乗セ今六連ニ来レリ
佐渡丸ハ無事目下日之丸ニテ救助中

六月十七日午後大本營着電

佐伯ヒウ(形?)

依渡九十五日午前十時馬関ヨリ約五十哩北ニ敵艦ヨシシ外ニ隻
為ノ砲撃サレ佐伯ヒウ形ニ戸恒吉池上伊作村木ケウイテ山崎
秀松技手小倉次郎山崎美一雇員西田政太郎平岩アセウ
長井朝次郎曾福五作丹羽銀次大塚次郎一山崎善次郎
杉山ヲウコウ嶋田義三郎笹川忠治横山ケノ人山崎次鉄
三浦勝治傭人三人及他部隊員一七人計七人小艇ニ乗リ
三時前海上ニ漂ヒ十六日午後五時五十分大嶋沖東經百三
十度北緯三十四度箇所ニ英國艦ヨリ一號救助ヲ受テ
今長崎要塞司令部ニ著ク

5-0363

0055

大海報第五拾號

沖ノ島附近ニ出現シタル敵艦隊ニ關スル

情報ノ主要ナルモノ左ノ如シ

其一

六月十五日某哨艦ヨリ午前八時二十五分大本營着電
三本楯ノ浦塩艦隊三隻又沖ノ島附近ヲ南下セリ

六月十五日上村司令長官ヨリ午前九時五分大本營着電
哨艦對馬ヨリ浦塩艦隊三隻沖ノ島附近ニ見テ下ノ通信
ニ接シ直ニ總艦ヲ率テ出港ス

六月十五日角島ヨリ午前九時四十分大本營着電
午前八時三十分ヨリ沖ノ島附近ニ砲撃ヲ聞ク

六月十五日角田中敷司令官ヨリ午前十時十分大本營着電
敵艦隊ハ今砲撃ヲ連續シツアリ本部所屬水雷艇

午前九時五十分出港セリ

六月十五日志岐ヨリ午前十時二十九分大本營着電

午前八時四十分敵艦二隻志岐沖ニ發見砲聲數十
發ヲ聞ク帝國汽船二隻逃ケ来ル

六月十五日角島ヨリ午後零時四十分大本營着電
海上濠洲トシテ艦影ヲ認メ得サル遺憾ナリ砲聲約三
時間ニ渉ル

六月十五日角田中敷司令官ヨリ午後一時七分大本營着電
風雨次第ニ増加シ水雷艇ノ航行ニ困難ト認ム雨ノ為メ一
埋以外ヲ見ル能ハス

六月十五日六連島ヨリ午後五時四十分大本營着電

今日丸艦振丸ハ敵海上ニ在リト信號シツ西ヨリ東ニ引
返ス

六月五日壹岐ヨリ午後三時五分大本營着電
午後一時五分敵艦東ニ去ル行衛不明

六月五日竹敷ヨリ午後三時四十五分大本營着電
風雨益々強烈敵情ニ就キ得ル所ナシ

六月五日壹岐勝本利後丸ヨリ午後四時七分大本營着電
敵艦ハ「ゴンボイ」、「ロシヤ」、「リユーリック」ナリ

六月五日六連島ヨリ午後五時五分大本營着電
幾内丸ハ博多ニ歸難セリ

六月十五日福岡ヨリ午後九時十分大本營着電
金澤丸ハ午前九時頃沖ノ島附近ニテ露艦ヲ認メ筑前
大島ニ歸難セリ

(續ク)

明治三十七年六月十七日 大本營海軍幕僚

大海報第五拾五號

沖ノ島附近ニ出現シタル敵艦隊ニ関スル
情報ノ主要ナルモノ左ノ如シ

其二

六月十六日佐賀ノ関ヨリ午後四時大本營着電
第七水雷艦隊ハ遭難地ニ向ケ午後二時出刃セリ

六月十六日隱岐島ヨリ午後四時三十分大本營着電
知夫郡黒木村戸長ノ報告

本村宇賀北方約十海里ノ沖合ニ怪シキ軍艦四隻ヲ
認ム

浦郷分署長ヨリノ報告

露艦ラシキ船三隻知夫郡宇賀村ノ北約二里ニ現ル
煙突二本不取敢報告ス

六月十六日隱岐北方郵便局ヨリ午後五時大本營着電

午後三時十五分一隻ノ汽船ヲ先キニ三隻ノ三本楯ノ軍
艦西ニ向ケ進行シ三時半頃更ニ北東ニ轉シ進行セリ

六月十六日較島佐世保鎮守府司令長官ヨリ午後七時四
十八分大本營着電

沖ノ島ニアル遭難者救助ノ為メ第八號艦ヲシテ京城
丸ヲ率テ今夜出港セシム

六月十六日由田竹敷要港部司令官ヨリ午後八時三十
分大本營着電

沖ノ島へ運送船及遭難ノ状況取調ノ為メ水雷艦隊
ヲ派遣セリ

六月十七日沖ノ島ヨリ午前一時大本營着電

昨十五日午前一時敵艦コシヤ「クロンボイ」リネーリシ

北ヨリ東水道ニ航シツ、アリカセ七時五十五分南西約八海里ノ處ニテ艦列ヲ解キ一隻ハ小呂ノ島ニ隻ハ若宮島(壹岐)ノ方ヘ向ヘリ八時三十分ニ隻ハ霧務ノ方ヘ船體不明トナリ一隻ハ八時三十分ヨリ發砲ヲ始ム其目的トセシモノ不明ナリシカ十時三十分ニ至リ南方約十三海里ノ所ニ一汽船東方ニ航スルヲ發見セリ該汽船ニ向ツテ發砲セシモノナリ該汽船ハ十時四十五分南方ヘ變針セリ十時二隻トモ霧務ノ方ヘ船體不明トナレトモ砲聲ハ止マサリシ零時四十分マテ追撃セシモノ、如シ佐渡丸遭難者昨夜五十三名漂着尚續々漂着シツ、アリ

六月十七日南田竹敷要港部司令官ヨリ午前七時五十三分大本營着電

第十五水雷艇隊ハ本日午前零時三十分沖ノ島ヨリ佐渡丸遭難者陸軍一等主計今川彌吉全三等主計西原遠壽以下七十七名ヲ分乗セシメ歸港セリ全隊ハ昨日午後一時二十分東方ニ砲聲聞ユトノ報告ヲ得沖ノ島ニ向ヒ四時半全島ニ着シ以上ノ遭難者ヲ乗セ歸リタル者ニシテ今川一等主計ノ報告ニ依レハ佐渡丸ハ十五日拂曉馬関ヲ發シ沖ノ島ノ南方迄テ前方ニ進航シツ、アル常陸丸追付カントセル際

兩中ニ敵艦一發見シ常陸丸ハ后方ニ引返シ佐渡丸モ
正ニ引返サントセルニ忽チ西船共敵艦ヨリヤ及ゴロモホ
イレノ砲撃手スルトコヨリ常陸丸ハ約五六十發目ニ非常ニ
白煙ヲ揚ケタリ多分火災ヲ起シタルモノナラン佐渡丸ハ近
巨砲ニ於テ十數發ノ砲撃ヲ受ケタルモ一時砲撃ヲ中
止セルヲ以テ本船ヲ停止シ監督將校ハ敵艦ニ到リテ交渉
シ四十分間ノ猶豫ヲ得各員退去スヘキヲ命ス而シテ非
戦員ハ自艦ニ收容スル事ヲ諾セルヲ以テ船員ヲ送リタル
モ一尋運轉キ(英人)ノ外ハ凡テ之ヲ乗船セシメス尚英ハタル
時間ヲ経過セシテ敵ハ西側ヨリ水雷ヲ發射シ命中爆
發セシメタリ茲ニ於テ各乗員ハ凡テ海中ニ投リ殆ント全員
溺死シ以上七十九名ハ幸シテ本船ノ端舟ニ乗シ風波ニ伴ヒ
七時頃全島ニ漂着シ第十五水雷艇隊ニ乗艇セシメ当地

ニ來リ當港ニ避難中南越丸ニ收容セリ右人員ハ時機
ヲ見テ還送スル筈常陸丸ノ遭難地ハ沖島ヲ巨ルコト
遠キ為メ今夕ニ至ルモノ名モ全島ニ漂着セシモノナシ又
遭難者ノ全地附近ヲ去リタル際ハ西船共未タ浮ヒ居
リト云フ尚ホ三十六號艇及六十號艇ハ未タ全地附近搜
索中ナリ

明治三十七年六月十七日 大本營海軍幕僚

大津藩家五拾貳聯

角田以敷要港部司令官報告

六月七日午後
大本營着電

佐渡丸生存者三レテ竹敷へ安着セシ人名左ノ如レ但シ
前電七十九名トセシハ八十名ナリ

今井矢吉	西岡健修	久我貫信	柴田藤太郎
松田慶一	河野喜一郎	飯田政次	佐藤萬次郎
新保乙藏	藤田光藏	山川誠次郎	田中鬼三郎
西川喜平	木藤多三郎	酒井忠誠	大橋甲子次郎
鈴木茂吉	伴直義	山路外松	石原静次
松田英登	鶴岡次郎	白井安吉	荏同善彌
戸田七志久	井出十郎	甘屋重太	八田茂三郎
大泉長次郎	井上鈴吉	小林清次郎	石田元二郎
小林義太郎	大場喜三郎	平澤忠次郎	へ本清次郎

渡辺長太郎	渡辺長次郎	渡辺源吉	平野金助
楢岡権一郎	平山米三	鈴木権助	鳥井虎三
宮内芳彦	野中駒吉	鶴田長八	福井輝見
山本佐次郎	小川利八	熊城常太郎	東村袈裟助
出水亀吉	篠原麟三	鹿島富士彌	米澤千比吉
大堀忠吉	大立要三郎	高山光次郎	野村善一
竹内マシキ	大谷萬次郎	渡辺ヤシ助	遠藤和三郎
永田太郎	辻音吉	橋輪貫之助	成田源三
津野安太郎	高橋喜一郎	竹内鶴松	香川廣吉
丸山卯平	山中喜作	菰田成次	株本辰吉
岡本友次	木戸菊次	川口延次郎	大西鉄次郎

本文姓名ハ電報ト告ルニ依リ其正譯ヲ保シ難シ

明治三十七年六月十七日

大本營海軍幕府

大海報第五拾號

生

沖ノ島附近ニ出現シタル敵艦隊ニ關スル
情報ノ主要ナルモノ左ノ如シ

其一

六月十五日某哨艦ヨリ午前八時二十五分大本營着電
三本橋ノ浦塩艦隊三隻沖ノ島附近ヲ南下セリ

六月十五日上村司令長官ヨリ午前九時三十分大本營着電
哨艦對馬ヨリ浦塩艦隊三隻沖ノ島附近ニ見テノ通信
ニ接レ直ニ總艦ヲ率テ出港ス

六月十五日南島ヨリ午前九時四十分大本營着電
午前八時三十分ヨリ沖ノ島附近ニ砲聲ヲ聞ク

六月十五日南田中敷司令官ヨリ午前十時三十分大本營着電
敵艦隊ハ今砲撃ヲ連續シツアリ本部所屬水雷艇

午前九時五十分出港セリ

六月十五日志岐ヨリ午前十時二十九分大本營着電

午前八時四十分敵艦二隻志岐沖ニ發見砲聲數十
發ヲ聞ク帝國汽船二隻池ヶ末ル

六月十五日南島ヨリ午後零時四十分大本營着電

海上濠洲トシテ艦影ヲ認メ得サル遺憾ナリ砲聲約三
時間ニ渉ル

六月十五日南田中敷司令官ヨリ午後一時四十分大本營着電

風雨次第ニ増加シ水雷艇ノ航行ニ困難ト認ム兩ノ為メ一
湊以外ヲ見ル能ハス

六月十五日六連島ヨリ午後五時四十分大本營着電

今日ノ丸艦振丸ハ敵海上ニ在リト信號シツ西ヨリ東ニ引
返ス

六月五日壹岐ヨリ午後三時五分大本營着電

午後一時五分敵艦東ニ去ル行衛不明

六月五日竹敷ヨリ午後三時四十五分大本營着電

風雨甚強烈敵情ニ就キ得ル所ナシ

六月五日壹岐勝本羽後丸ヨリ午後四時五分大本營着電

敵艦ハ「カロンボイ」、「ロシヤ」、「リユーリック」ナリ

六月五日六連島ヨリ午後五時五分大本營着電

幾内丸ハ博多ニ避難セリ

六月十五日福岡ヨリ午後九時十分大本營着電

金澤丸ハ午前十九時頃沖ノ島附近ニテ露艦ヲ認メ筑前

大島ニ避難セリ

(續ク)

明治三十七年六月十七日

大本營海軍幕僚

大海報第五拾志第

沖ノ島附近ニ出現シタル敵艦隊ニ関スル
情報ノ主要ナルモノ左ノ如シ

其ニ

六月十六日佐賀ノ開ヨリ午後四時大本營着電
第七水雷艦隊ハ遭難地ニ向ケ午後二時出刃殺セリ

六月十六日隱岐島ヨリ午後四時ニ分大本營着電

知支郡黒木村戸長ノ報告

本村宇賀北方約十海里ノ沖合ニ怪シキ軍艦四隻ヲ
認ム

浦郷分署長ヨリノ報告

露艦ラシキ船三隻知支郡宇賀村ノ北約二里ニ現ル
煙突二本不取敢報告ス

六月十六日隱岐北方郵便局ヨリ午後五時大本營着電

午後三時十五分一隻ノ汽船ヲ先キニ三隻ノ三本櫓ノ軍
艦西ニ向ケ進行シ三時半頃更ニ北東ニ轉シ進行セリ

六月十六日較島佐世保鎮守府司令長官ヨリ午後七時四
十八分大本營着電

沖ノ島ニアル遭難者救助為メ第八號艇ヲシテ京城
丸ヲ率テ今夜出港セルム

六月十六日南田竹敷要港部司令官ヨリ午後八時三十
分大本營着電

沖ノ島ヘ運送船及遭難ノ状況取調ヲ為メ水雷艦隊
ヲ派遣セリ

六月十七日沖ノ島ヨリ午前一時大本營着電

昨十五日午前六時敵艦四隻カロンボイヲリニエリク

北ノ東水道ニ航シツ、アリカセ七時五十分南西約八
海里ノ處ニ艦列ヲ解キ一隻ハ小島島ニ隻ハ若宮
島(壹岐)ノ方ヘ向リ八時十分ニ隻ハ霧ノ為メ船體
不明トナリ一隻ハ八時三十分ヨリ砲ヲ始メ其目的トセ
シモノ不明ナリシカ十時三十分ニ至リ南方約十二海里ノ所ニ
一汽船東方ニ航スルヲ発見セリ該汽船ニ向ツテ砲
ヲシモノナリ該汽船ハ十時四十分南方ヘ交針セリ十
一時ニ隻トモ霧ノ為メ船體不明トナレトモ砲聲ハ止マ
サリシ零時四十分マテ追撃セシモノ如シ佐渡丸遭
難者昨夜五十三名漂着尚續々漂着シツ、アリ
六月十七日隠岐西郷ヨリ午前七時大本營着電
而路艦ノ煙突ハ四本ニ隻二本一隻櫓ハ三本ニ隻其
他ハ不明右記メタル時刻ハ昨日午前十時頃ナリ

六月十七日南田竹敷要港部司令官ヨリ午前七
時五十分大本營着電

第十五水雷艇隊ハ本日午前零時三十分沖ノ
島ヨリ佐渡丸遭難者陸軍一等主計今川
彌吉全三等主計西原遠壽以下七十七名ヲ
分乗セシメ歸港セリ全隊ハ昨日午後一時二十
分東方ニ砲聲聞ユトノ報告ヲ得沖ノ島ニ
向ヒ四時半全島ニ着シ以上ノ遭難者ヲ乗
セ歸リタル者ニシテ今川一等主計ノ報告ニ
依レハ佐渡丸ハ十五日拂曉馬関ヲ発シ沖ノ島
ノ南方ニ航シツ、アル常陸丸ニ追付カントセル際

雨中ニ敵艦一發見シ常陸丸ハ后方ニ引返シ佐渡丸モ
正ニ引返サントセルニ勿心ケ西船共敵艦ヨリヤ及ゴロモホ
イレシ砲撃キストヨリ常陸丸ハ約五六十發目ニ非常ニ
白煙ヲ揚ケタリ多分火災ヲ起シタルモノナラン佐渡丸ハ近
巨砲ニ於テ十數發ノ砲撃ヲ受ケタルモ一時砲撃キ中
止セルヲ以テ本船ヲ停止シ監督將校ハ敵艦ニ到リテ交渉
シ四十分間ノ猶豫ヲ得各員退去スヘキヲ命ス而シテ拒
戦員ハ自艦ニ收容スル事ヲ諾セルヲ以テ船員ヲ送リタル
モ一昇運轉キ(英人)ノ外ハ凡テ之ヲ乗船セシメス尚吳ハタル
時間ヲ経過セシテ敵ハ西側ヨリ水雷ヲ發射シ命中爆
發セシメタリ茲ニ於テ各乗員ハ凡テ海中ニ投シ殆ント全員
溺死シ以上七十九名ハ幸シテ本船ノ端舟ニ乗シ風波ニ伴ヒ
七時頃全島ニ漂着シ第十五水雷艇隊ニ乗艇セシメ当地

ニ来リ当港ニ避難中南越丸ニ收容セリ右人員ハ時機
ヲ見テ還送スル筈常陸丸ノ遭難地ハ沖ノ島ヲ巨ルコト
遠キ為メ今夕ニ至ルモノ全島ニ漂着セシモノナシ又
遭難者ノ全地附近ヲ去リタル際ハ西船共未タ浮ヒ居
レリト云フ尚ホ三十六號艇及六号艇ハ未タ全地附近搜
索中ナリ

明治三十七年六月十七日 大本營海軍幕僚

大海報第五拾貳號

角田竹敷西女港部司令官報告

六月十七日午後
大本營電

佐渡丸生存者三十三名竹敷へ安着せし人名左ノ如シ但シ
前電七十九名トセシハ八十名ナリ

今井矢吉	西岡健修	久我貫信	柴田藤太郎
松田慶一	河野喜三郎	飯田政次	佐藤萬次郎
新保乙藏	藤田光藏	山川誠次郎	田中鬼三郎
西川喜平	木藤多三郎	酒井忠誠	大橋甲子次郎
鈴木茂吉	伴直義	山路外松	石原静次
松田英登	鶴岡次郎	白井安吉	莊司善彌
戸田セキタウ	井出十郎	甘屋重太	八田茂三郎
大泉長次郎	井上鈴吉	小林清次郎	石田元二郎
小林義太郎	大場喜三郎	平澤忠次郎	へ本清次郎

渡辺長太郎	渡辺長次郎	渡辺源吉	平野金助
楢岡権一郎	平山米三	鈴木権助	鳥井虎三
宮内芳彦	野中駒吉	鶴田長八	福井輝見
山本佐次郎	小川利八	熊城常太郎	栗村袈裟助
出水龜吉	篠原麟三	鹿島富強	米澤平比吉
大堀忠吉	大立要三郎	高山光次郎	野村善一
竹内シシキ	大谷萬次郎	渡辺ヤシ助	遠藤和三郎
永田一太郎	辻音吉	橋輪貫之助	成田源三
津野安太郎	高橋喜一郎	竹内鶴松	香川廣吉
丸山卯平	山中喜作	菰田成次	森本辰吉
岡本友次	木戸菊次	川口延次郎	大西鉄次郎

本文姓名ハ電報ト告ナルモ依リ其正譯ヲ保シ難シ

明治三十七年六月十七日 大本營海軍幕僚

24

電文譯

六月十七日

午前十時三十分發電
午前十一時三十分着電

角島ヨリ

軍令部長宛

午前十時ヨリ時々砲聲ヲ聞ク方向不明

電文譯

六月十七日

午前十時四十分發電
午前十一時七分着電

角田竹敷司令官

軍令部長宛

午前九時四十分ヨリ十時三十分頃迄本部ノ約北
東ニ當リ六、七發ノ砲聲ヲ聞ク距離ハ四十
マイル以上ナラン

電文譯

六月十七日

午前十時發電
午前十一時七分着電

佐世保鎮守府長官

軍令部長宛

午前十時十五分發電
北東ニ當リ砲聲頻リニ聞ケルモ艦影見え
崎山王樓ヨリノ電報

明治三十七年六月十七日 大本營海軍幕僚

秘

内務大臣

長崎長崎

六月十七日 前十七日 午後十時十分受

只今船名不詳、外國汽船一隻、長崎港外に在り、
白雷敷隊に、取内中ナルカ同船、
佐添丸遭難者七十一名、搭乗せし由

内務大臣

長崎長崎

六月十七日 前十七日 午後十時十分受

只今沖、島附近に、當り二十余隻ノ砲聲
聞エト、番推分、電報アリ

秘

内務大臣 福岡名義事
六月十七日午後三時三十分發三時早分受

只今救世船伊勢丸、佐渡丸、兼江輝輝、兵士(兵種等不明)百七十名、門司上陸、不確、不、佐渡丸、洋上、居、趣、詳細、後報

内務大臣 福岡名義事

六月十七日午後三時三十分發三時早分受

確、同、ス、レ、ハ、時、今、貴、州、津、方、向、出、発、類、砲、撃、一、回、ト

内務大臣 山口和知事

六月十七日午後四時三十分頃、東京湾の海上に、
清用船勝所丸ハ十六日午後十一時、内司船
非白崎沖ニシテ潮流ノ為メ、同所碇泊シ、
軍艦大和電ニ流レ掛リ沈没ス。乗組員
事大和ハ船首ニ微傷ス。又豊彦コブシ
ニ於テ佐治丸遭難者五一人救フ

内務省

内務大臣 山口和知事

六月十七日午後四時三十分頃、東京湾の海上に、
清用船勝所丸ハ十六日午後十一時、内司船
非白崎沖ニシテ潮流ノ為メ、同所碇泊シ、
軍艦大和電ニ流レ掛リ沈没ス。乗組員
事大和ハ船首ニ微傷ス。又豊彦コブシ
ニ於テ佐治丸遭難者五一人救フ

内務省

由務大臣 山口孫兵衛
 正徳十七年四月廿七日
 遣艦船佐渡丸乗組員五百余名
 今下関之上陸也

内務省

内務大臣 初雲孫兵衛
 正徳十七年四月廿七日
 遣艦船佐渡丸乗組員
 者軍人一四五人(内將校八名)門日港
 之上陸又甚湾丸乗組員一〇五人
 弘福丸一乗組員之門日之入港也

内務省

内務大臣 福子殿
本年七月十日午後十時廿分

只存子下宗像郡ツヤガキ港ニ泊
ト三澤着内一艘内ニ函索烟ニテ
發テん死作一發見ス

内務省

内務大臣 山口殿
本年七月十日午後十時廿分

對馬方面ニ方リ砲撃ノ事アリ
今年七月廿七日西市ニ着キ
ヨリ報告ス

内務省

5-0363

0073

内務大臣 福島好雄
 先刻伊勢丸ヨリ廻航者上陸ノ旨電被
 セシ佐佐丸乗組將校ノ内一名ハ兵大
 佐田村義一ニシテ河大佐ノ秩ニ依リハ竹
 内砲兵中佐ハ教ノ捕虜ト为リニ懸

内務省

内務大臣 福島好雄
 六月十七日午後九時十五分ヨリ二十時五十分迄
 佐佐丸乗組廻航者ノ内將校ハ全數
 生存ノ趣又昨夜乗取被シ陸予也船
 船ハ諸方ヨリ廻航者ヲ救護シ同日
 入港シツテ又水雷艇ハ佐佐丸ノ
 キートニ三名ノ死体ヲ載セ入港陸揚シ

内務省

内務大臣 山崎好太郎
 六月廿七年九月廿七日
 本年十一月の頃より年終迄の間に
 玄海灘北方及び阿武郡三島附近
 二處に砲撃ヲサクトノ事有リ
 リ報告アリ

内務省

内務大臣 山崎好太郎
 六月廿七年九月廿七日
 玄海方面に方り砲撃ヲサクト
 本年十月廿七日
 長門西市分署長
 ヲ報告ス

内務省

内務大臣 山田 嘉吉
 六月十七日午後九時五分至十七日午後十時五分
 幸成王勝車に乗りし佐治九選親者
 八車台所六時五分至九時五分
 引取、奉りし引取にあり

内務大臣 山田 嘉吉
 六月十七日午後七時五分至八時五分
 佐治九選親五兵中佐竹内 徹
 兵中佐佐藤 コウノ 外將校十五 何
 毛 貫一

内務省

秘

内務大臣

福岡縣知事

六月十七日午後五時三十分頃一時廿五分
昨夜報告セシ波渡丸ノ避難者ハ小燕
汽船一隻及漁船二隻ニ總員百十八
名門司ニ上陸セリ其ノ談話ハ既報セ
シ要領ト大差ナシ

内務大臣

福岡縣知事

六月十七日午後五時三十分頃一時廿五分

只今救助船伊勢丸ヲ依渡丸乗組

避難者軍人一四五人(内將校八名)門

日港ニ上陸ス又基隆丸乗組軍人一

〇五人ハ弘濟丸ノ救助セリ門日ニ入

港セリ

内務省

内務大臣 山崎嘉三郎
 正午迄午後七時迄八時迄
 佐藤九重理工兵中佐竹内徹
 砲兵中佐佐藤コウノ外將校十
 五名何レモ参り

内務省

内務大臣 福島安正
 正午迄午後六時迄八時迄

先刻停物九ノ返勤者上陸ノ与モ
 被レシ佐藤九重理將校ノ内一名ハ工
 兵大佐田中義之助日大佐ノ談ニ依リ
 ハ竹内砲兵中佐ハ敵ノ捕虜ト为リ
 越

内務省

内務省 事務

吉正等共在... 汽船(シガヤ)号... 四六... 四十五... 廿二... 廿三... 廿四... 廿五... 廿六... 廿七... 廿八... 廿九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百

内務省

5-0363

0001

我

内務大臣

生

福岡縣知事

六月十七日 前八時三十分 受

門司白木等沖ニ昨夜午後十一時
四十分頃御用船勝野丸ト四回丸
衝突シ勝野丸沈没ス船員等事

5-0363

0082

明治 年 月 日
起草 日發遣

電報第七七號
明治三十年六月八日
主任

生

在籍

中村大佐

新島臨時代地ニ付

第二回令

云々艦隊ニ十八日午三時五時
過ギ津輕海峽ノ西方ニ現

外務省

心附連日北東陸奥國ノ十

シ崎ノ附近近々航セシカ正

午過ギ北西ニ向テ去レリ

右ノ金山馬山木浦仁川元山

領事一轉電アリ

ウナ



三
三

大臣
次官

電信課長
主管

Handwritten signature

Handwritten initials

電受第一三九 號 明治廿七年三月十八日 午後八時五分 發

外務大臣 北海道廳長

松前郡 村沖

沖谷ノ通

換極

右

署

外務省

大臣

電信課長

次官

主管

出

電受第一二四一號 明治三十七年六月十八日 午後四時四分 發

分送

北海道庁長官

福山縣警察署長、吉野左

(十六日午後七時二十五分着)

今入港所淡島、小島附近にて

船三隻、火ノ所、何箇ヶ所、北へ

外務省

汽船一隻、西調へ文を指し

本

日三

大臣

次官

電信課長

主管

電受第一三五五號 明治 年六月六日 午後八時五分 着

外務大臣 北海道庁長官

露艦二隻調子受々免汽船ハコウ丸

捕虜修治丸乗込武原浮音を右

ヲ取戻シ今迄此地へ逃去ノ者

ス為舞鶴沖ニ石炭荷載ノ英

外務省

吉利松寺浦遊ニ送致セヨル由

(十百五前十時十五分) 福山巡査部長

早電報アリ

Handwritten signatures and stamps, including a circular seal with the number 1533.

三

大臣

次官

電信課長

主管

電受第三四六號 明治廿六年六月十八日午後八時五分 發

外務大臣

北海通商局長

電受第三四六號 明治廿六年六月十八日午後八時五分 發
函波ノ取替ル旨候ノ事トテ(十)百多
口時(五)分(神)山(終)ノ(事)業(者)ト(テ)電(報)了

外務省


5-0363

0089

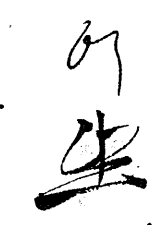
大臣 

電信課長


事務

次官 

主管


事務

電受第 三三三 號 明治 三十二年 六月 十六日 午後 八時 五分 發

外務大臣 北海通商局長 友

福山町 支那館 電報

小島沖 船中 船長 丸 渡 船

三隻 之 團 之 内 也 高 松 之 見 手

証 據 之 通 信 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

外務省

清丸 之 通 信 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

右 中 非 不

右 中 非 不

右 中 非 不



大臣
次官

電信課長
主管

電受第一四八號 明治十七年六月十八日午後九時九分 發着

不務大臣 北海島根長友
福山沖 三汽 松ハコウ丸 才二 船港丸
電受此軍需品搭載、右等方
信水舟向ラ受ケルノミニニ共ニ
福山ニ着セリト (十六日午前十時五十分着)

外務省

函館水止手器長手書報了

要旨付了



大臣 **山**

次官

電信課長

署名

主管

Handwritten signature

Handwritten signature

電受第一三四九

號

明治廿七年六月十八日午後八時五五分

發

外務大臣

北海道廳長友

電報の捕獲せうとタル英米流
船ハアラントニ跡ニテ日人ノ乗込
一人アリシ由福山署長ヨリ午後十一
時三十四分若電報アリ

外務省

要旨付
24



大臣 

電信課長

加藤

次官



主管



Houder

電受第一三五〇號 明治三十七年六月十八日午後二時五分 發

外務大臣

小島 陸軍大臣

露艦今南へ行方行衛不修者
ニ報告せし水雷艇沙復ハ誤り付
取消ス(十八日午後一時三十分着)
福山 水雷艇長ヨリ報告アリ

外務省

大臣 山

次官

電信課長

主管

第...

山

山

電受第一五一

號明治七年六月六日午後九時十分

發着

不修在

北海道廳長友

午前十時半刻に港へ出帆し

龍雲丸に長、彼、ヨシ、時夜十時半

五十三 岬、海軍艦隊は、海

峡西より迷力ヲ保ムス 瀬原に任セ

外務省

高ッラ見ル者多ク、時駆逐艦形、快

速力ノ汽艇、日浦屋岸内、沿岸

半海軍に沿ッテ西に向ヒ急行スルヲ見ル

多ク、前軍艦は、江差沖より再び西

方に向キ、環シ海峽、西口に向ッテ認ム

直後ニシテ艦ヲ凝視スル高松ト是

リ軍艦ヲシテ艦ヲ或ハ砲撃、海峡

偵察ヲ遂ゲタルナリト思ハレ警戒中

ト電報西館長上長官等セリ、非特テ

十日後に待テ、不中報ス

大海報第五拾參號

抄

角田行敷要港部司令官報告要領

六月十八日午前六時大本營着電

十五日遭難者ニ関シ附近各地ニ照會、結果壹岐郡長ヨリ佐渡丸遭難者十三名勝本ニ在リ返電ニ接シ直ニ水雷艇隊ヲ派遣セシ其一部ハ村田繁頼、中島強太郎外十一名ヲ收容シ帰港セリ尚他一部ハ附近沿岸ノ搜索中ナリ
遭難者ハ監督將校及通譯一名敵艦ニ赴キタル俟ヨリラスト云ヘリ

明治三十七年六月十八日 大本營海軍幕僚

(正誤)

大海報第五拾貳號佐渡丸生存者人名中
木戸菊次ハ存在セザル旨追報アリタルニ依リ削
除ス

大海報第五拾四號

東郷聯合艦隊司令長官報告

六月十八日午後五時大本營着實

一昨十六日午後時第四駆逐隊ハ老鉄山ノ南方約
十海里ニ於テ敵ノ機械水雷三個ヲ発見シ之レ
ヲ爆沈セリ又同所ニ敵ノ假制水雷數個
ノ沈置心アルヲモ発見シ共ニ之ヲ數千破セリ

明治三十七年六月十八日 大本營海軍幕僚

三十七年六月十八日 港受

政務局

和泉丸の事

内務大臣

福岡縣知事

六月十八日午前三時五十分 港受 同日六時五十分 受

豊前縣下ツヤ崎港に漂着、昔報告セ
レ死体一ボート三、遭難者搜索救助、
為シ派遣シタル漁船カ昨十七日午後一
時頃小呂、島ト沖ノ島、間ニ於テ発見セ
リ死者ハ三十五六歳ノ男子ニシテ船員隊
知シ日本郵船株式會社ノ名アリ而シテ

死者ハケンコウ部ヨリ胸部ニ跨リテ砲弾
ノ擦過傷ヲ受ケ左足ハ殆ント砲弾ノ為
ニ挫折セラレ又ボートニ向レモ和泉丸ト
書シアルニ付全船部屬タルコトヲ認メ死
者モ全船遭難者タルコトヲ認ム右ノ外
楫救命具椅子等拾ヒ揚ケシモノ若干
アリ察スルニ和泉丸ハ撃テ沈セラレシナラン

内務大臣

大島圭助

六月十八日。五ノ書。日ニ所着

佐渡丸遭難者七九名。沖ノ崎ニ

漂着シタルヲ昨夜水雷艦ニテ

竹崎ノ入港セシ旨電報アリ

發務局

内務大臣

福家孫右衛門

五月十八日午後八時十分至

本日大崎沖ニ漂着セル佐渡丸付屬船

一船ニ揚タルノ其内ニ歿者ヲ何名

ニ斃劍ヲ受ケタル年數ニ五位ノ人

何ノ死体一遺見ス

内務省

5-0363

0099

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

政務局

内務大臣 山口和知事

六月十八日午後八時四十分着の九時三十分

只今警急船二隻佐渡常陸丸遭難者六二名下ノ関入連レ帰レリ又佐渡丸ハ高砂丸ニ曳レ六連島ニ到美セリ

内務省

内務大臣 其海軍大臣

六月十八日午後八時三十分着の九時三十分

覆船ヨリ帰リタル武藏丸源吉ノ様ニ十八日函録ヲ取致事ニ旨話ニ及タリト(十午午口前廿六分)福山前長官ヨリ電報

内務省

警察署

由船大信 世海老之敵女復
 六月十八日午後八時五十分着岸
 午後十時廿五分
 三汽船ノメ捕獲セシメ其五汽船
 ハ(アラントン)号ニテ日輸入乗組一人
 アリル由(福山着船)

内務省

警察署

由船大信 世海老之敵女復
 六月十八日午後八時五十分着岸
 午後十時廿五分
 三汽船ノメ捕獲セシメ其五汽船
 ハ(アラントン)号ニテ日輸入乗組一人
 アリル由(福山着船)

内務省

5-0363

0101

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

内務大臣 福吉孫右衛門
吉田内閣の年終公算の十時十分着

本日の沖の漂海人の依渡九付舟船
一船に揚タル其内の顛倒者胃腸
と旋剣ヲ長クタル年終二五位ノ人
は、死体一遺見ス

内務省

内務大臣 山崎持義
六月十八日後の時止る養のに時半七分

昨日より六時迄の間に蘇新の上
に未仕後、常時、各道、新着判
任、此下、九百八十名、内、病者、九
十四名、未仕、難、五、九、十、各、各
下、各、山、上、内、九、十、各、各

内務省

内務大臣 其海老名を以て
 六月廿八日午後八時、其の在りし船中
 覆船の船視より、先汽船ハコウ
 丸、捕虜佐渡丸乗組武蔵原吉
 一名が船底に寄着、此地に遊歴
 入港し、船中沖に石炭満載、其吉利
 船一浦迄運致せしむ(由)廿八日午後十時
 福山報 其海老名電報

内務省

内務大臣 其海老名を以て
 六月廿八日午後八時、其の在りし船中
 覆船の船視より、先汽船ハコウ
 丸、捕虜佐渡丸乗組武蔵原吉、其
 十八日函報より、其海老名を以て
 六月廿八日午後八時、其の在りし船中
 福山報 其海老名電報

内務省

内務大臣 其向是之故
六月十八日午後八時五十分下着の十九日廿五時

二名船ノ為メ捕獲セリ之ハ英皇海軍船

ハ(アランドン)号ニテ日本人乗組一人

アリ之由(福山善寛)

内務省

内務大臣 山口和知事
六月十八日午後八時五十分下着の十九日廿五時

只今警備船ニテ佐渡、常陸丸

難者六二名下ノ関入連ノ帰リ

又佐渡丸ハ高砂丸ニ曳レ六連

船ニ到着セリ

内務省

内務大臣 青島に在る者

青島に在る者 青島に在る者

青島に在る者 青島に在る者

福井中村三三至所方日本形帆船安静九一四
 八三石積八十六日正午十二時北緯四一度五三分
 東経七度八分(大島ヨリ一一一哩西北)福井船
 右近権左(あ)あ日形帆船八樽九一三
 五七石積八日午後六日北緯三一度五分東
 経一三八度一分(大島ヨリ五三哩西北)に
 行度国水雷艇三艘之警沈せられ乗組人船
 長以下三名八報徳丸之救助せられ只今江
 差に廻程し奉りてある者九二八乗組員
 二名残り居り生死不明の船長八函銀皮
 衣の袋を手にて居り雪艇より一公書ラ
 携りて居り又徳丸の船内捜索の上金
 銀や強奪せられり左申被る

内務省

内務大臣 北条道成 右官

六月十九日 午四時 奉 命 於 日 六 時 三 分 下 着

露國水雷艇ヨリ 島根 船長カ 持来シ
函 綴 家 宛、其 函 ハ 英 文 ニ シテ 以 差 知 事
公 署 ニ シテ 譯 シ 且 文 ニ 曰ク (私ハ 戦 事
状ニ 依リテ 左 様ニ 多ク 人々ヲ 救ハセシメ、又ハ
余 等 ナクサシテ、
私ハ 凶 徒 閣下ハ 彼 等ヲ 救フニ 力ヲ 尽ス)

内務省